



業種：自治体
人口：9,838人（令和8年5月31日現在）
総面積：13730ha



宮崎智弘さん（左）と後藤良太さん。南阿蘇村公式キャラクター「ブルル」と「ミルリ」を手に。

自治体DXの一環として業務用スキャナーとAI-OCRソフトウェアを導入し 各課が実施するアンケートの集計などに活用 将来的には保存書類のデータ化や申請関連業務などへの展開も見据える

熊本県阿蘇郡の南阿蘇村役場では、DX推進の一環として業務用スキャナー「fi-7700」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」を導入し、運用を開始しています。DX推進は人口減による将来的な職員減少を前提に、業務の効率化と省人化を実現し、職員がコア業務に集中できる環境を整えて住民サービスの向上につなげることが狙いです。運用開始から約2か月が経過した現在、庁内では両製品の利便性に対する認識が徐々に高まり、各課のアンケート集計に活用されているほか、複数の活用アイデアも出ているとのこと。役場を訪ね、活用状況について具体的にうかがいました。

- 目的** 人口減による職員の減少を前提に、業務の効率化と省人化、ならびに住民サービスの向上を目的に推進しているDXの一環として、「fi-7700」と「DynaEye 11」を導入。
- 効果** 運用開始後、早々にアンケート集計への活用が始まったほか、各課からDX推進係への問い合わせや相談が増えている。今後は保存書類のデータ化業務や申請関連業務への展開も見据えている。

各課が実施するアンケートの回答を「fi-7700」でスキャンし、「DynaEye 11」でイメージデータを読み取って集計する

——南阿蘇村役場 政策観光課 DX推進係 主幹の宮崎智弘さんと、同じく主事の後藤良太さんにうかがいます。南阿蘇村ではDX推進の一環として、令和8年2月にA3対応のフラットベッド付きスキャナー「fi-7700」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」を導入されました。実際の運用はいつスタートしたのでしょうか。また、どのような用途に活用していますか。

宮崎さん 2月の導入後、各課への操作説明などを経て、3月末から4月頭にかけて運用を開始しました。現時点（令和8年6月初旬）での主な用途は、各課で実施するアンケートの集計です。回答の枚数は規模によりますが、100～200枚が多いようです。

後藤さん 直近ではアンケート集計にスキャナーとAI-OCRを使いたいという依頼が2件あったほか、その前は福祉課が介護関係のアンケート集計に活用しました。それは看取りに関するアンケートで、介護を受けられている方が施設でお亡くなりになるのか、ご自宅で

お亡くなりになるのかといった質問に対する回答を集計し、今後の計画に盛り込むということでした。

——アンケートの回答はすべて紙で回収しているのでしょうか。

後藤さん 用紙にQRコードを記載し、スマートフォンでもご回答いただけるようにしていますが、現実的には紙が圧倒的に多いですね。

アンケートの一例（以下すべて、回答はダミーです）。QRコードも記載していますが、回答の多くは紙で集まります。

「fi-7700」と「DynaEye 11」の高い性能と使い勝手のよさに高評価。 操作の導入部分を教えれば、書式定義も含めて各課が問題なく進めてくれる

——アンケートのスキャンと読み取りは、アンケートを実施した課が行うのでしょうか。

宮崎さん 基本的には各課が行いますが、現在は導入したばかりなのでDX推進係が最初だけ手伝っています。導入部分を教えれば、あとはたいてい自分で進めてくれます。

——読み取る回答は選択式と記述式、どちらが多いのでしょうか。➤

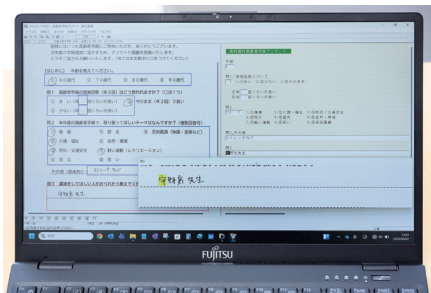
➤宮崎さん 両方ありますが、多くはチェックボックスか丸で囲む方式の選択式です。

——「DynaEye 11」の書式定義も各課で行っているのでしょうか。

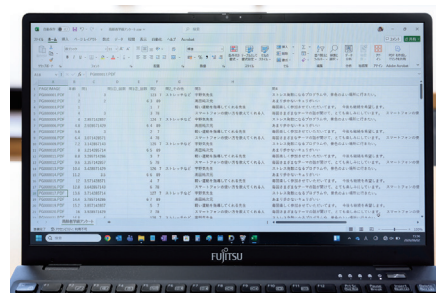
宮崎さん 方法だけ教えて、あとは各課に定義してもらいます。「DynaEye 11」の書式定義は使い勝手がよく、直感的に定義できるためか、「難しい、できない」といった声はありません。



ADFとフラットベッドの両方を備えたA3対応スキャナー「fi-7700」でアンケートをスキャンし、イメージデータを生成します。



イメージデータを「DynaEye 11」のAI-OCRで読み取ります。読み取り結果とイメージデータが並んで表示されるので、確認と修正が楽にできます。



確認・修正後にCSVファイルで出力。手入力では時間を要する作業も短時間で完了します。

——「fi-7700」は政策観光課に設置しているのでしょうか。

宮崎さん 当課ではなく電算室に置いてあり、使うときには該当する課に取りに行ってもらいます。設置場所を決めてしまうと、使うたびにその場所まで行って作業しなければならないので不便です。そこでスキャナーをツールワゴン(台車)に載せ、電源さえ入れればすぐ使えるよう、一式で動かせるようにしました。

——「fi-7700」と「DynaEye 11」に対する評価をお聞かせください。

宮崎さん 「DynaEye 11」は、これまでのアンケート集計を通じて読み取り性能に問題がないことを確認済みです。「fi-7700」はスキャンするスピードが速く、正確に読み込めます。紙詰まりなどトラブルの報告も受けていません。

なお、スキャナーに関しては保存書類のデータ化にも活用予定のため、製本された契約書や傷みの激しい伝票もスキャンできるフラットベッドを備えた「fi-7700」を導入しました。

——「fi-7700」と「DynaEye 11」の活用についての展望と、DX推進の今後の見込みについてお聞かせください。

宮崎さん 運用が始まって2か月程度ですが、短期間に大量の情報を処理するときに有利であるという認識が庁内に浸透しています。短期間に1,000～2,000枚が集まる、保育園の入所申込書集計への活用も検討中です。

将来的にはオンライン申請と連携させる、申請書類をAI-OCRで読み取る、それらを行政の情報システムと連携させるなど、活用範囲を少しずつ広げていき、最終的に大きなシステムにつなげることができればよいだろうと考えています。オンライン申請などの大きな仕組みを一括で実現できればよいのですが、予算が限られているため、現実的にはスモールスタートにならざるを得ません。それでも「小さいけれど効果があるもの」を積み重ねていけば、最終



ツールワゴンに「fi-7700」と、「DynaEye 11」専用のPCをセット。使用する課に移動させ、ワゴンに載せたまま電源を入れれば、すぐにスキャンとOCR処理を行います。

的には大きな仕組みが出来上がるはずですので、その方向で進めるつもりです。

